



6月幼稚園だより

令和6年6月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵



(番町幼稚園HP)

「知りたい」を育む

園長 中村 千絵

ダンゴムシを探せ!

3歳児もも組は、今、ダンゴムシに夢中です。番町幼稚園の前庭には、5月になると、たくさんのダンゴムシが出てきます。最初は、5歳児うめ組の子どもたちに見付けてもらっていたのが、自分たちで見付けられるようになってきた嬉しさです。「私のダンゴムシ!」と喜びの声があがります。



ダンゴムシについて知る

ダンゴムシを探して、コレクションのように自分のカップに集めていたのが、そのうちに、丸まることへの不思議さを感じたり、「ごはんだよ」とカップの中にちぎった葉っぱを入れたりする姿が出てきました。

ある日、ダンゴムシのカップの中にたっぷり水を入れて「ダンゴムシ、お風呂に入れてあげてるの!」と言っている子どもがいたそうです。ダンゴムシは、水中でも短い時間であれば生きていられる生き物ではありますが、教師は、その子の気持ちを受け止めながらも「お風呂にもぐっちゃうと苦しいからね」と救出の手助けをしたそうです。



もも組の子どもにとって、「コレクションできる物」に近かったダンゴムシが、「命のある生き物」になるチャンスです。保育室にダンゴムシ飼育コーナーを作り、関連する絵本や図鑑を置き、そして「よく見る」きっかけとなるよう紙製の虫メガネを置きました。生き物への興味をもち、そこに愛着が生まれる。だから、命の大切さも実感として分かり、その生き物について知りたいと思う。幼児期の知識は、実体験や実感と共にあることで、より価値の高いものとなり、また、このような経験が次の「知りたい」に繋がります。

「知りたい」を育むために

植物や生き物には、たくさんの不思議が隠されています。大人になっても、自然に対して「なんでだろう」と思うことは、どなたも経験されていると思います。全ての学びの基となる知的好奇心は、この「なんでだろう」「知りたい」から育まれていきます。

どの学級にも「なんでだろう」「知りたい」を育むための仕掛けが様々、用意されています。ただ、植物を育てるのではなく、興味をもてるような教師の仕掛けがあることで、科学的好奇心も命を大切にすることも育まれていきます。

4歳児さくら組 ?の苗



「バセリの匂いがするから、バセリだよ!」

番町幼稚園では、ピーマンやトマトなどの他に「?の苗」を育てています。一体、何が育つか、触ってみたり、匂いをかいてみたり、他の植物と比べてみたりします。「何か分からない」という仕掛けが子どもたちの「知りたい」を刺激します。

5歳児うめ組 アサガオの種



さくら組では、今、カタツムリの卵とアゲハチョウの卵を飼育中。命の不思議さに身近に触れる機会です。



うめ組で、アサガオを育てる前に、種を水につけ、(発芽を促すため)その様子を子どもたちが観察できるようにしていました。担任が種の近くに「なにがかわったかな?」という問いを貼っておいたことで、子どもたちは毎日の変化に気付き、「この茶色いのはね、種のお洋服なんだよ」と私にも教えてくれました。

6月は、日枝神社の山王祭があります。「番町」と言うこの地域で学んでいる子どもたちが地域文化に触れる機会です。また、ご家族の方にも活躍していただける「親子で遊ぼう」や歌のおねえさん神崎ゆう子さんの「親子シネマコンサート」があります。

地域の行事や幼稚園行事を親子で一緒に経験することで、また、大人も一緒に心を動かすことで、子どもの心はより大きく動き、「楽しい」「不思議」「すごい」をより深く感じるすることができます。ご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。